

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2024年7月23日第134号—

<目次>

- 先生たちを分断する「新たな職」の危険
- 学校給食のあり方を大きく揺さぶる食材値上げ
- ▲お知らせコーナー

★編集後記

- 先生たちを分断する「新たな職」の危険

<教職員未配置、長時間労働の解決方向は見えず>

新年度に学校がスタートしたにもかかわらず、川崎市では昨年の2倍にもなる132人もの先生が配置されない大問題は、解決の方向が見えません。

一方、国でも、多忙化する先生の仕事を何とかしなければということで「働き方改革」対策が検討されてきました。

この間、国では中央教育審議会の特別部会が開かれ、「質の高い教師の確保」について議論されました。

その委員には労働団体の代表も入っておらず、多忙化に対する対策は「教員給与特別措置法」（給特法）は存続させ（教職員の残業代を認めず、その代わりに教職調整額として月給の4%を支給するとしていた）教職調整額を10%に引き上げるという案が出されました。

この金額では現在の残業の実態に見合うものでなく、改革とはとても言えません。

<中教審が言い出した教員の「新たな職」とは>

今回出された、「審議のまとめ」には、今の「一般教員」の中に「新たな職」を設けて給与にメリハリをつけるという内容が含まれています。

しかし、これはすでに東京で行われている「教員人事のピラミッド型」改悪を全国に波及させようとするものです。

東京では2009年に主任教諭という制度が導入されました。それ以前に主幹教諭が導入され、全体の85%が一般教諭だったものが現在、その一般教諭の中で37.4%が主任教諭、45.9%が一般

教諭になっています。

<東京の学校現場はどうなっている？>

先日、13日にオンラインで「新たな職」に対する学習会が行われ、東京の実態についての青年共有から報告がありました。

「若い先生たちの中では、自分たちはいっぱい仕事をやっているのに、余り一生懸命やっていない年配の先生の給料が高いことに対する不満。

また、自分も主任教諭になって人に指示を出したりする立場になってみたいという人が周りにいる。また、ベテランの先生からは自分が作り出してきた実践方法を若い先生にどうして教える必要があるのか」など、先生たちの間での分断が持ち込まれている実態が報告されました。

<川崎の現場で>

川崎市教職員連絡会(職員団体)は、去る7月13日に第34回定期総会を開催しました。

川崎の学校現場の状況を交流しながら、教職員が抱える困難をどう解決していくかを話し合いました。

この1年間のたたかいでは、特に5月の稲田小のプール水流失事故を教職員に個人賠償させた問題で、多くの教職員、保護者、市民と連携し、マスコミを巻き込んで、「過失への個人賠償という川崎方式をやめさせる方向」をつくりだしました。

総会では、このことを大事な教訓としていくことを確認しました。

コロナ渦で特別休暇の申請をきちっと出せていなかったことに対して「公務員にあるまじき非行行為」などの「注意処分」を市教委は26人に対して行いました。

その中で28万円を賠償請求された女性教員は納得ができないと措置要求という形で人事委員会に告発した報告や、校長によるパワハラ問題を追及している報告など、黙ってばかりいない先生たちのうごきもあります。

また、連絡会の5人の若い教員が市教委交渉に参加するなど新たな動きも出てきています。

なかなか声を出しづらい学校現場の中で、理不尽なことは許せないという輪を広げていくことが子どもたちにとっても大切な教育につながっていくことになるでしょう。

川崎市教職員連絡会 事務局長 船津 了

■学校給食のあり方を大きく揺さぶる食材値上げ

<保護者の給食費の納入額では食材料費が足りない！>

学校給食費は、年度初めに保護者に通知されます。

そして、決められた金額を、川崎市が保護者の金融口座から引き落しています。

年度途中に急激な物価値上げの波が襲っても、変えることはできません。

それでは、実際に物価高騰が進んだ2023年度に、川崎市はどう対応したのでしょうか。

5月28日に、市議会文教委員会へ報告した「川崎市の学校給食の現状」がそれを明らかにしています。

2023年度の給食の食材料費の総額は、約62.2億円。

一方、保護者が負担した給食費は約58.5億円でした。

つまり、約3.7億円が物価値上げの影響を受けて、不足したのです。

川崎市は、不足分を補うために、国からの「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しました。

これにより、保護者に新たな負担を求めず、また、学校給食の質を落とさずに給食を提供することができました。

<2023年度の1食分の給食費の不足はどれぐらいだったのか>

小学校では、保護者からの1食当たりの徴収額、270円では28円不足し、298円になりました。

中学校では、徴収額320円に対して33円不足し、353円になりました。この不足額を、国の臨時交付金で補ったのです。

一方、川崎市は、食材料費を抑制するために、献立づくりにおいて、学校給食摂取基準を守りながら献立づくりにおいて、様々な工夫をしてきたが、その工夫にも限界が近づいている、と報告しています。

<物価値上げによる食材価格の上昇>

2024年度に入っても、物価高騰はさらに強まっています。

川崎市が給食費の値上げをした2018年度と比べてみます。

まず、主食の値上がりです。

米(無洗米)10kgで、3510円から4212円へ702円(20%)の上昇。

食パン40gで、40.5円から55.2円へ14.7円(36%)の値上げ。

牛乳は、200ccで52.2円から62.8円へ10.6円(20%)の値上げ

その他の食材でも、平均で約10%の値上げです。

値上げ額が大きいのは、果物で35.8%も上昇しています。

<2024年の秋は、給食費値上げの道か、学校給食無償化への道かの分かれ道になる>

川崎市は2024年度の赤字額を補うために、「学校給食運営基金」の残高3.7億円を活用するとしています。

この「基金」は、一時的な物価高騰や災害などに備えて給食費などから積み立ててきたものです。

しかし、さらに物価高騰が進めば、一般財源から繰り入れるしかなくなります。

また、2025年度以降は、「学校給食運営基金」を使う余裕もありません。

そのために、川崎市は、「食材料費は保護者負担」方針を続けるために、この秋に保護者アンケートを実施し、それを踏まえての「学校給食費値上げ」の方向を打ち出そうとしています。

メルマガ「新しい川崎」で報じてきたように、「学校給食無償化を求める川崎市民の会」は、2万筆署名を11月まで実施し、市議会に提出する取り組みを進めています。

今年の夏から秋は、安心・安全でおいしい学校給食を進めることができるのは、川崎市が提案する学校給食費値上げの道か、市民が求める学校給無償化の道かの、大きな分岐点となります。

学校給食は大事な教育の一環であり、義務教育は無償の憲法原則に立ち、学校給食は無償化を求める声を大きく広げに広げていきましょう。(H)

★お知らせコーナー

①給食無償化を求める署名行動

7/24(水)10:30~11:30

川崎駅ラゾーナ通路

7/28(日)16:30~17:30

元住吉ブレーメン通り大野屋前

②ゆめホールシネマ倶楽部 Vol.36

「福田村事件」

9/14(土)

場所:かわさきゆめホール

①9時

②12時

③15時

④18時

前売予約:1,000円

当日:1,500円

障がい者・学生以下:500円

お申し込み:044-433-3003

cinema@kawasakiyume.com

[詳しくはこちら](#)

[公式サイト](#)

★編集後記

今月中旬に、コロナに感染しました。

家族が「夏風邪」になったと思って、少々お世話をしていたところ、念のためと薬局で買ってきた検査キットで測定したら「陽性」ラインがくっきりと出ました。

しかし、それから家庭内隔離をしても間に合わず、私も感染しました。

最初の3日間は、38度を超える発熱があり、4日目からは、咳とのどの痛みが続き、味覚がなくなり、食欲も減退しました。

発熱して1週間が過ぎて、やっと「ほぼ平常」な生活にもどることができました。

コロナが大流行の兆しなのに、マスコミも自治体からも、ほとんど情報はきません。

でも、コロナは突然にやってくるのです。

私の場合は、家族がいたので高熱の状態でも安静を保ち、なんとか養生することができました。
しかし、年齢は問わず、一人暮らしの方が感染した場合は、一人で不安の中に置き去りにされてしまうこととなります。

重症化した時のコロナの医療体制はどうなっているのでしょうか。

国も自治体も新型コロナの5類移行後の昨年9月末で、コロナ治療薬の公費負担を打ち切ってしまいました。

東京都医師会の尾崎治夫会長は7月16日、新型コロナの感染者が増えているだけでなく、コロナの治療薬の自己負担が約3万円と高額になるため薬を避ける人が出ていると指摘。

感染者が治療を受けられるよう、国や自治体に支援の継続を訴えています。

コロナの治療薬(ラゲブリオ、パキロビッドなど)の窓口負担は処方1回あたり約3万円(3割負担)にのぼり、インフルエンザの抗ウイルス薬などと比較しても非常に高額です。

他の感染症で用いられるものと同水準とするなど、緊急に新たな公費補助の創設の必要性を、今、痛感しているところです。(H)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/YRudK6mkKvmL?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp